

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2170103069
法人名	株式会社 ライフ敷島
事業所名	グループホーム みのりの家
所在地 (電話番号)	岐阜県岐阜市野一色6丁目10-26 (電話) 058-240-3928
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年9月1日

【情報提供票より】(平成19年 8月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 22 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	10.3 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 300 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低 69 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たなかクリニック 小林歯科 藤掛第一病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームみのりの家は、岐阜市郊外の田畑の残る静かな住宅街に位置し、県立病院や学校(小・中・高等学校)、公園、スーパー、喫茶店なども近くにある自然環境、生活環境とも恵まれている。地域の暮らしに溶け込むことを目指して自治会の回覧板にホームの行事等を伝えたり努力している過程といえる。事業所内では、入居者一人ひとりが自分のペースで過ごしており、職員もそのペースになるべく合わせるようにしており、全体的にゆっくりと時間が過ぎていくという雰囲気が感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>自治会の回覧板等を利用してホームの理解を得る努力を続けている。評価結果は職員に周知され、改善への取り組みを少しずつ進めている。職員のケアの向上に繋がる研修(他施設での実習)に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員個々の振り返りにつなげるためにも、全員で取り組み、全員の意見を反映していくことが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、地元の自治会長、家族代表、市役所の担当者等で構成されている。市の意向で事業所単位での推進会議の開催が今年度からということもあり、事業所の状況を報告し、理解を深めてもらう段階にとどまっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の近況を面会時に伝えるとともに、家族の要望等を聞き取るようにしているが、面会の少ない家族へは直接電話をかけるようにしている。また、毎月請求書を送る際に、生活の様子や写真、行事の案内を送ることで要望等を聞き取るきっかけづくりとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元自治会に加入することで、地域の行事の情報を得たり、事業所の行事案内を回覧板で回してもらったりしているが、現時点ではいわゆるご近所づきあいといった関係までは構築できていない。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくりと・・・、いっしょに・・・、たのしく・・・」という理念を掲げているが、地域密着型の事業所に移行したことが反映されているとはいえない。	○	平成18年度から「地域密着型サービス」へ移行したことを踏まえ、理念についてスタッフ全員で再検討することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念を掲げているほか、ミーティングの際などに、日頃のケアが理念に基づいているか振り返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元自治会に加入し、地域の行事を把握したり、事業所の行事案内を回覧板で回したりしているが、地元の人々と十分な交流が図られているとはいえない。	○	開設して3年程ということもあり難しい面もあると思われるが、今後は運営推進会議等を活用することで、地域住民との交流をより積極的に図ることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価における要改善点については、改善の取り組みがみられた。	○	自己評価については、管理者のみでなく職員全員で取り組むことで、自分たちの実践を振り返ることに活用していった欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市の意向で他のグループホームとの共同開催であったものが、今年度から事業所単独で開催されるようになったため、まだ2回しか開催されていない。	○	家族や地域の意見がサービスに反映させるような運営推進会議の開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの担当課はもとより、生活保護の担当課とも利用者のことで話し合うなど、必要に応じて積極的に関わっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会を利用して家族に利用者の暮らしぶりを伝えているが、面会の少ない家族には写真や行事の案内を送るという工夫をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの更新時等に家族の要望等を聞き取るようにしているが、具体的な要望等が出されたことはほとんどない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ2年ほどは退職者もなく職員は固定しており、入居者との馴染みの関係が維持されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験年数に応じて順次研修を受けている。また、資格取得のための研修が受けられるように勤務時間等が配慮されている。	○	研修の成果を職員で共有できるよう、資料や報告書を回覧したり、研修結果を基に内部研修を行うといった取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入している他、管理者の知人がいる他の事業所で職員の実習を受け入れてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みながらのサービス開始となるよう、入居前には2泊から4泊程度の体験入居をしてもらい、納得してもらった上で契約している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事などの経験を發揮してもらいながら、職員は利用者のできない部分を補い、共に支え合う関係を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら訴えのある人は日常的に希望や意向の把握ができるが、訴えない人、少ない人については、職員が「○○しますか?」といった感じで、その都度問いかけるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、それぞれの利用者の担当職員が原案作成を行い、他の職員の意見も取り入れながら、最終的にケアマネージャーがまとめるという方法をとっている。なお、家族の意見等は、面会の機会等を利用して聞き取るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとの見直しを基本としているが、利用者の変化やモニタリングの結果に応じて、随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院等の外出は、家族ではなく職員で対応している(家族が主体的に行う場合を除く)。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居前のかかりつけ医の利用を継続するか事業所の協力医療機関を利用するか選択してもらっており、事業所の協力医療機関の利用を選択された場合は、入居前のかかりつけ医に情報提供してもらうようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と終末期のことについては話し合いをしておき、訪問時に終末期を迎えようとする利用者もおられた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライドを傷つけないケアを大切にしている。また、利用者の個人的なことを他の利用者の家族話さないように気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、職員側の都合を優先する様子は見られなかった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで、一緒に食事を楽しんでおり、食事介助の必要な利用者も一緒に食事をとるよう配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を原則としているが、希望があれば予定日以外にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の他にも囲碁や家庭菜園など、入居前の経験を發揮してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自ら希望する人が少ないため、買い物や散歩などへの参加を呼びかけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はついていますが、鍵の開け閉めは利用者の意志に任されている。玄関には鍵がかけられていないものの、エントランスと内部を仕切るドアには鍵がかけられている。	○	以前は目が離せないほど常時徘徊される利用者がおられたようだが、現在は皆さんが落ち着いて生活しておられるように見受けられた。鍵をかけることが常態化しないよう、利用者の状況に合わせて「鍵をかけないケア」に取り組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年2回実施しているが、まだ地域の協力を得られる段階には至っていない。	○	事業所としてすでに認識しておられるが、地域の人々の協力が得られるような働きかけが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録されている。また、水分の摂取量は記録されていないものの、職員は意識的に水分補給を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るくゆとりがあり、入居者がそれぞれの生活の場面に応じて自由に自分のペースで過ごすことができるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は持ち込み自由で、テレビや大きなタンスが置いてあるなど、利用者の個性や好みによる違いが見られた。		